

# JR本々と G会社協力会社の認識共有を！

市川委員（広島地方本部）

●安全について、昨年の3月25日に、山陽線光下松駅間で作業に気を取られ線路に立ち入る退避不良が発生した。

8月12日には、山陽線厚狭駅構内で、措置を講じていたにもかかわらず、ポイント清掃箇所を誤り、汽笛吹鳴を受ける事象が発生している。そんな中、昨年12月27日、山陽線西広島・新井口駅間



●23春闘について、JR西労組の多くの組合員が公共交通機関の社員として使命感を持ち、業務を遂行している。今春闘は、政府の発言にも

●宮高フェリー支部は、コロナ禍においての「利用の低迷から、回復傾向にある。

また、現在、「JR広島病院」「県立広島病院」「中電病院」が一体となって新病院を構築する構想が進められている。法人側とも連携して、組合員の不安を少しでも取り除く対応を行っている。

●中国JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JR西日本本体的結果の波及効果が大きく、中央闘争委員会への奮闘に期待する。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

## ABC運動の水平展開と 凡事徹底の職場風土を

前畑委員（西日本JRバス地方本部）

●全国のバス運転士の平均年齢が53歳、企業種別の平均年齢と比較しても10歳ほど上回っている。昨年、名古屋高速において、空港連絡バス死傷事故が発生したが、運転手の体調異常の可能性も見られている。

50歳以上の運転手の健康に起因する事故の発生率が顕著に増加している。自身の体調管理を基調に安全を最優先した考動を体質化することが肝要と考える。

●成功体験が、最後のチエックを怠り「このくらいは大丈夫」と慢心してしまう。このでも、自らを律してABC運動の水平展開と凡事徹底の職場風土を構築していく。

●コロナの3年間、組合員の声や悩みに正面から向き合い、寄り添い、支え、実直に仕事に取り組みできた組合員と、その家族の負担に配慮するため、アと賞与の要求に加え、待遇改善を求めていきたい。

●コロナウイルス感染症も3年を経過し、国民の行動制限や経済活動の制限が見直さ

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

また、ヒューマンエラーが発生する代表的要因は、「慣れ」である。危険に対する意識が低下し、それが省略行動に繋がる。ミスがなかったという

●JR西労組の総力を結集して、この過渡期を何として乗り越え「百論を論じ、百策を講じて、時勢という魔物を討ち果たそう」。

●JRバスにおいて重大な労災は、3年間連続してない。しかし、運行再開に伴い、昨年度の有責事故は23件、今年度12月までの事故発生件数は有責事故22件となっている。

## 執行部答弁

### 離職・超勤と難題山積も、 議論の中から光明を見出す

川原業務部長

●離職は、コロナ前の1.5倍以上になっている。特に、施設と電気が顕著で、電気が2倍以上、なかでも電気の総合職が3倍。会社も危機感を持っています。離職の少ない企業では、人間関係やコミュニケーションが充実しているといったデータもあり、電気部門ではコミュニケーションの充実を図ることで少し離職が止まりました。

●離職は、コロナ前の1.5倍以上になっている。特に、施設と電気が顕著で、電気が2倍以上、なかでも電気の総合職が3倍。会社も危機感を持っています。離職の少ない企業では、人間関係やコミュニケーションが充実しているといったデータもあり、電気部門ではコミュニケーションの充実を図ることで少し離職が止まりました。

●離職は、コロナ前の1.5倍以上になっている。特に、施設と電気が顕著で、電気が2倍以上、なかでも電気の総合職が3倍。会社も危機感を持っています。離職の少ない企業では、人間関係やコミュニケーションが充実しているといったデータもあり、電気部門ではコミュニケーションの充実を図ることで少し離職が止まりました。

## 組合員に寄り添った運動が大事

石田原組織 政治福祉対策部長

●組織について、先人先輩のおかげで組織率は95%になった。今後も組織率100%を目標に組織拡大に取り組んでいくが、求心力を高めることも重要と考えている。

●コロナ禍で組合活動が制限されてきたが、徐々に活動を再開するとともに、組合員と対話することを基本に、組合員に寄り添った運動をお願いしたい。

●組織について、先人先輩のおかげで組織率は95%になった。今後も組織率100%を目標に組織拡大に取り組んでいくが、求心力を高めることも重要と考えている。

## 納得感が得られるように、 取り組みを進める

田中文化・法対部長

●業務課題について、「納得感」という話があったが、これは本社本部間で議論された内容で、新幹線協議会としても、山陽新幹線統括本部の中でも議論をさせていきたい。

●離職についても、主幹部と議論しながら働きがいを持つような取り組みができればと

●業務課題について、「納得感」という話があったが、これは本社本部間で議論された内容で、新幹線協議会としても、山陽新幹線統括本部の中でも議論をさせていきたい。

●業務課題について、「納得感」という話があったが、これは本社本部間で議論された内容で、新幹線協議会としても、山陽新幹線統括本部の中でも議論をさせていきたい。

●業務課題について、「納得感」という話があったが、これは本社本部間で議論された内容で、新幹線協議会としても、山陽新幹線統括本部の中でも議論をさせていきたい。